

海外教育実習2015

11月22日～12月5日



Gun Jakobsson 校長
Vasa Teacher Training
School, University of
Åbo Akademi



Joseph Moate CLIL 講師
教授 Studies in Higher Education
University of Jyväskylä



Christiane Dalton-Puffer
教授 Department of
English & Centre for
Teacher Education
University of Vienna



Kristiina Skinnari 教諭
Tarja Nikula 教授
Centre for Applied Language
Studies
University of Jyväskylä

教員を目指す学生・院生の皆さん、未来の仕事へと手ごたえのあることにトライしたい皆さん、自分らしさを生かし、得意教科をとことん研究して海外の子どもたちに授業をしてみませんか。教員はどうかすれば子どもが学力を身につけ、自ら考えようとするのかを科学的に学んで実践しなければなりません。それは、「情熱」とか「一生懸命」だけでは成しえないことです。本プロジェクトでは、様々な分野の教員が連携して、英語で理科、英語で体育等、専門知識で皆さんの授業作りを実現できるよう応援します。異国の学校で英語を使って授業をするって、とても大変だと思うかも知れません。「わたしは英語が話せないから」とか。でも2週間の海外教育実習に仲間と準備をしているうちに、誰もが英語を使って授業することが出来るようになります。人と助け合ったり交渉し合ったりすることで新しいアイデアが生まれます。未知の体験をして新たな自分を発見してみようではありませんか。



柏木賀津子教授
(外国語)
プロジェクトリーダー



宋戸隆之准教授
(体育)



種村雅子准教授
(物理)



ジョン・トムセック
准教授 (ランゲージ
チャット)



石田雅子
アドバイザー
(ランゲージチャット)

CLILを活用した海外教育実習には、2011年以降、5年間で52名が参加し、11名の大学教員（英語・物理・体育・美術・数学・教育学）が指導をしてきました。大学院（学習開発研究演習英語）・学部（小学校英語教育）の修了者が応募できます。年毎にその企画は充実しています。また、最先端の教育理論に基づく授業作りはとても魅力的です。是非参加して、明日の世界に羽ばたこう！
大阪教育大学 夜間学部主事 田中俊弥 2016年3月

- 2011年度 台湾教育実習 10名（国立台中教育大学・附属小学校）
- 2012年度 スウェーデン・フィンランド教育実習 11名（リンネ大学・キュラビック基礎学校・オーボ・アカデミー大学附属実習校）
- 2013年度 スウェーデン・フィンランド教育実習 10名（キュラビック基礎学校・オーボ・アカデミー大学附属実習校）
- 2014年度 スウェーデン・フィンランド教育実習 12名（ユバスキュラ大学・コルテボハ小学校・オーボ・アカデミー大学附属実習校）
- 2015年度 フィンランド・オーストリア 9名（ウィーン大学 ウィーン市内小中学校・ユバスキュラ大学・コルテボハ小学校・オーボ・アカデミー大学附属実習校）

CLILで授業づくり！



CLIL(内容言語統合型学習)は「4つのC」で授業を組み立てます。

4つのC:

- ・Content(科目やトピック)
 - ・Communication(言語知識や読む、書く、聞く、話すといった言語スキル)
 - ・Cognition(思考力)
 - ・Community/Culture(共同学習、異文化理解、地球市民意識)
- 学生が主体となって作り、子どもの思考を引き出し、意見交換の場を大切にします。



天王寺キャンパスでは、大学院生と学部生の協働で海外教育実習を毎年行っており、北欧での実施は5回目です。2015年は、フィンランドのユバスキュラ大学と小学校、オーボ・アカデミー大学附属実習校、ウィーン大学とウィーン市内の小中学校に訪問しました。本プロジェクトでは、CLIL(内容言語統合型学習)理論を応用し、理数・異文化等の授業を英語で発信しています。「グローバルな視野」「教える英語力」「教科の授業力」を身につけることを目指しています。特別総合科目Ⅲ(海外教育実習)の単位に位置付けられ、独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)より奨学金を受けています。



大阪教育大学

天王寺キャンパス 夜間

第二部 小学校教員養成5年課程 夜間大学院 実践学校教育専攻

2週間のスケジュール

- 1日目
 - ・航空機にてフィンランドへ移動
- 2日目
 - ・オーボアカデミー大学ヴァーサ校訪問1日目
- 3日目
 - ・ヴァーサ校訪問2日目/理科・落語班授業
 - ・FKF日本語学校の学生と交流
 - ・Gun先生宅にてホームパーティ
- 4日目
 - ・ヴァーサ校訪問3日目/食育班授業
 - ・列車にてユバスキュラへ移動
- 5日目
 - ・Kortpohja 小学校訪問/前半授業
 - ・ユバスキュラ大学訪問1日目
- 6日目
 - ・ユバスキュラ大学訪問2日目
 - ・列車にてヘルシンキへ移動
 - ・前半の打ち上げ
- 7日目
 - ・フィールドワーク(各自ヘルシンキ近郊散策)
 - ・前半の反省会
- 8日目
 - ・航空機にてウィーンへ移動
 - ・ウィーン市内散策
- 9日目
 - ・フィールドワーク(各自ウィーン近郊散策)
- 10日目
 - ・ウィーン大学訪問1日目
 - ・NMS Konstanziagasse 訪問
- 11日目
 - ・ウィーン大学訪問2日目
 - ・各班別の学校へ訪問・授業
- 12日目
 - ・ウィーン大学訪問3日目
 - ・各班別の学校へ訪問・授業観察
- 13日目
 - ・後半の反省会
 - ・航空機にて日本へ向けて移動
- 14日目
 - ・帰国

Straw Rocket (理科)



理科班は、スーパーボールの「ボールを落とす高さ」(drop height)と「はねかえる高さ」(bounce height)の関係について、実験を通して子どもたちに理解させました。次に、ストローロケット(スーパーボールとストローが衝突を利用してストローがロケットのように高くとぶ現象をもちいた仕組み)を作ってストローをとばす授業を行いました。ストローロケットが高く飛ぶ分けについては、高校物理で学習する内容(力積)であるので、子どもたちには、体験的・視覚的に科学的現象を見つけられるようにしました(cognition)。楽しんで実験をしている姿が見られました。(学部: 廣畑早紀 小林侑樹 浅井悠志)



コルテポハ小学校での訪問授業



オーボ市内の日本語学校の学生と交流



集合写真@フィンランド

UMAMI (食育)

食育班は、日本の旨味(UMAMI)について授業を行いました。わたしたちは体の五感と五つの味覚についての授業を行いました。絵カードや日本のスナックを持参し、四つの味覚(sweet, sour, salty, bitter)を考え分類する活動を行いました(cognition & culture)。その際に五つ目の味覚であるUMAMI(旨味)があることを紹介しました。カツオと昆布をつかってだし作りを実演し、味覚を感じるのは人の舌にある味蕾(taste buds)であることを学ぶため、ミラクルフルーツを使った味覚の体験をしました。食材や味に注意を払うことで、健康な体づくりができることや「和食」の奥深さを伝えられたと思います。(現職: 伊藤由紀子 大学院 M2: 谷野圭亮)

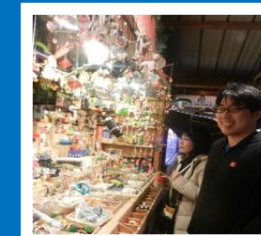
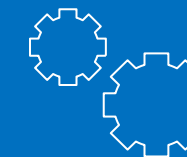
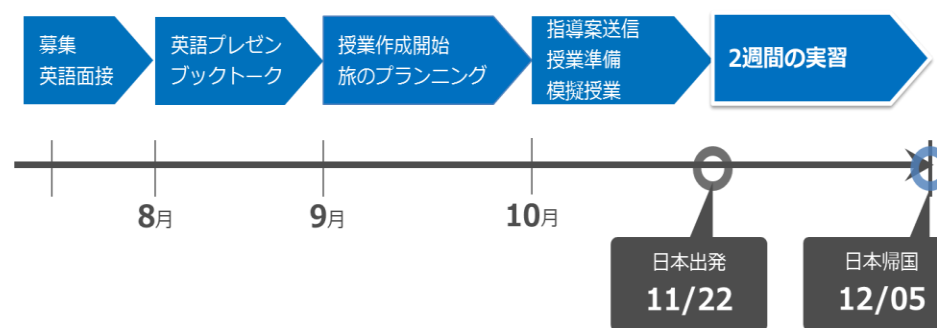


Rakugo (落語)

落語班は日本の伝統文化である「落語」を披露し、子どもが演じてみることを主題に置きました。題材は、日本の有名な落語である「時うどん」を選択しました。子どもは、落語を鑑賞し、次に台詞が書かれた巻物を手掛かりにその一部を新しく考え発表しました(Communication & Cognition)。子どもが演じた例には、落語特有の扇子をエアギターにみたり、同じ台詞でもいい方を変えたりする等の工夫が見られました。楽しんで日本の笑いの文化に触れてくれたと思います(Community & Culture)。(大学院 M1: 坂根静希 学部: 西川知里 有田早紀)



北欧海外教育実習 全体スケジュール



クリスマス マーケット散策



市内は電車で



John 先生も参加